キトラ古墳周辺地区
基本計画検討委員会（第２回）

●検討資料骨子

Ⅰ．計画の方針

１．計画のテーマと基本方針

キトラ古墳周辺地区の整備のテーマを「キトラ古墳の保存と活用、周辺の歴史遺産を生かし、歴史が訴える古代の時空間、生活文化を歴史と共に培われた風土の中で体験・学習・交流し、地域の活性化に資する公園づくり」と設定し、計画の基本方針を以下のように設定する。

（１）キトラ古墳保存活用
（文化財周辺環境の保全）
（文化財周辺環境の創出）

（２）歴史的風土保存活用
（歴史的風土の保全）
（散策・休養・展望需要への対応）

（３）体験的歴史学習の展開
（キトラ古墳関連事項の展示の場）
（体験的歴史学習の場）

（４）新しいサービスの提供と地域活性化との連携方策
（利便性の向上に寄与する機能の導入）
（市民参加による維持保全活動の導入）
（新しい手法に対応した管理施設の導入）
（地域波及効果の高い施設の導入）

２．ゾーン設定と導入機能

計画の基本方針に基づき、主たる活動、導入機能、導入施設、空間演出の検討をもとに、４つのエリアに区分すると共にそれぞれのエリアごとに以下のようなゾーン区分を行った。

基本方針	（1）キトラ古墳保存活用	（2）歴史的風土保存活用	（3）体験的歴史学習の展開	（4）新しいサービスの提供と地域活性化との連携
主たる活動	文化財鑑賞	散策・休憩・展望	体験学習	情報・サービス・交流
古墳保全活用エリア	古墳保全ゾーン	古墳保全ゾーン		
	古墳鑑賞ゾーン		古墳鑑賞ゾーン	古墳鑑賞ゾーン
歴史体験学習エリア	歴史体験ゾーン	歴史体験ゾーン	歴史体験ゾーン	歴史体験ゾーン
歴史的風土保全活用エリア		風景鑑賞・創出ゾーン		
				サブエントランスゾーン
		田園環境保全ゾーン（谷部）	田園環境保全ゾーン（谷部）	田園環境保全ゾーン（谷部）
		田園環境保全ゾーン（里山部）	田園環境保全ゾーン（里山部）	田園環境保全ゾーン（里山部）
			休憩ゾーン	休憩ゾーン
		展望ゾーン	展望ゾーン	展望ゾーン
		田園環境創出ゾーン	田園環境創出ゾーン	田園環境創出ゾーン
情報案内エリア				メインエントランスゾーン

Ⅱ．計画諸元の検討

１．年間利用者数の予測

キトラ古墳周辺地区供用後の国営飛鳥歴史公園全体の利用者数に関する予測を行った結果、年間約 1,300,000 人と算定し、内キトラ古墳周辺地区利用者に関しては年間 300,000 人と設定した。

２.日最大、ピーク時利用者数の検討

年間利用者数 300,000 人の想定に基づき、日最大利用者数について以下のように推計した。本計画においては、周辺の立地状況等を勘案し、計画ピーク時対応を計画の前提条件とする。

日最大利用者数Ａ　3,700 人（最大ピーク時）

日最大利用者数Ｂ　2,200 人（計画ピーク時）

３.施設の規模算定

利用者数の想定に基づき、園内広場・園路・便所・駐車場・自転車置場・拠点学習施設・情報案内施設に関する施設規模の算定を行った。

Ⅲ．空間構成・施設計画の検討

１．空間構成・施設計画の考え方

空間構成・施設計画の検討においては、計画区域内における谷と尾根で構成される眺望、広がり、囲繞性などのこまかな景観特性を活かし、また、キトラ古墳の周辺の既存樹林や果樹園、棚田状の農地などの長い時間のなかで培われてきた風土の活用、隣接する於美阿志神社などの歴史的資源との連携を考慮する必要がある。このため、各ゾーン別に空間構成と演出計画ならびに必要とされる施設計画を検討する。

２．古墳及び周辺環境エリア

（１） 古墳保全ゾーン

キトラ古墳本体保存のために、山塊、斜面の保護、修景を行う。また古墳周辺の樹林地を、古墳本体と一体となった周辺環境として保全しながら、往時の植生復元を検討する。史跡の保全を図るとともに、高質な管理を行う。 なお、本体の保存・活用については文化庁においてもそのあり方を検討中であり、協調した整備を行う。

（２） 古墳鑑賞ゾーン

キトラ古墳の全容が見渡せる広場を整備すると共に、季節感漂う野の花等による修景を行う。また、キトラ古墳の保存活用については、文化庁と連携をとりながら、整備を進めるものとする。

３．歴史体験学習エリア

（１） 歴史体験ゾーン

様々な歴史的文物やレプリカの展示等を行うほか、マルチメディアや双方向型の展示等により楽しくわかりやすい体験的歴史学習の中心となる施設を整備する。屋外では、古代の生活体験、星宿図にちなんだ天文観測や往時の祭りなどを再現したイベント等にも対応する。

（２） 風景創出・鑑賞ゾーン

飛鳥地方の歴史的風土の創出モデルとなるよう、段状に広がる平坦地を活用して、キトラ古墳周辺および地区内外の歴史的風土を鑑賞する場を整備する。また、背景となる樹林の整備を検討する。

（３） サブエントランスゾーン

キトラ古墳への団体客や一時立ち寄り客の利用に対応したサブエントランスとして、利用者の便益性に寄与する場を整備する。

４．歴史的風土保全活用エリア

（１） 田園環境保全ゾーン（里山）

里山空間として良好な環境づくりを行う。アメニティ豊かな森林管理を利用者の参加によって行い、新しい維持管理手法の実験の場ともする。

（２） 田園環境保全ゾーン（谷部）

南側の谷筋に展開する農地と耕作放棄地を生かして、谷の棚田空間を保全するとともに、地区外の田園景観との一体化を図る修景を施す。また参加型の新しい維持管理手法の実験の場ともする。

（３） 休憩ゾーン

三方を緑に囲まれた、ゆったりと休息ができる広場空間を整備する。メインエントランスゾーンとの連携により、公園の様々な催しにも対応する。

（４） 展望ゾーン

飛鳥らしい風景を鑑賞する展望の場を整備する。隣接する古都法による買入地等と一体的に保全・修景し、近隣、中景、遠景の風景を楽しめる空間とする。また集落空間とのバッファ空間を確保する。

（５） 田園環境創出ゾーン

飛鳥の歴史的風土を復元・創出する修景を行う。飛鳥にちなんだ五穀、七草、万葉植物などによる修景により、往時の田園環境を創出する。

５．情報案内エリア

（１） メインエントランスゾーン

キトラ古墳周辺地区全体のメインエントランスとして、公園利用・飛鳥周遊の情報提供の場とする。管理センターは、大根田集落から於美阿志神社まで続く、尾根線上の田園景観との調和を図るため、飛鳥の集落空間を再現する民家型施設を検討する。

（２） 管理ゾーン

植栽等のバックヤード、公園内の植物残材を有効活用するための資材置き場など、当地区の活動を支えていくための場とする。公園施設全体の管理を行うとともに、来園者及び地元ボランティアの人々が公園管理作業へ参加できる施設として位置付ける。

６．施設等規模の検討

各ゾーンにおける主要施設の適正規模について、計画ピーク時と最大時における利用規模を算出し、各エリア・ゾーンごとの規模ならびに主要施設等の規模を算出した。

Ⅳ. 学習活動計画の検討

１.飛鳥地方における博物館・資料館の位置付け

キトラ古墳周辺地区における学習活動計画を考えるに先立ち、飛鳥周辺の博物館・資料館の展示手法等から位置付けを整理した結果、キトラ古墳周辺地区では、今まで飛鳥地方では機能的に不足している参加型･体験型の能動的な学習活動の展開が求められる。また、学習活動の内容については、キトラ古墳に関する歴史的な学習と共に、飛鳥の風土や文化を理解するための学習活動が必要である。

２. 学習活動計画の基本方針

キトラ古墳周辺地区の学習活動計画の基本方針を以下のように定める。

- ○ キトラ古墳周辺地区で行う学習活動は、これまで飛鳥周辺では行われていなかった参加型･体験型の学習活動とする。
- ○ 情報を受け取るだけの受身の学習ではなく、来園者が学習活動を通じて身につけた知識や技術を活用できるような活動プログラムを検討する。
- ○ 従来のような短時間の学習活動ではなく、長期滞在が可能な学習活動内容を提案する。

３. 学習活動計画

飛鳥の歴史と風土を体験を通して理解できる学習活動を行うためには、拠点となる施設を中心に周辺の景観や地域の資産を活用しながら、周辺環境と一体的に展開する必要がある。そこで学習活動の場となるブロックを、周辺の景観やエリアの特性などから南北二つのブロックに分ける。

Ⅶ. 基本計画案の検討

１.動線計画の考え方

計画区域における計画の与条件ならびに空間構成や施設イメージを勘案した上で、動線計画を以下のように設定する。

・都市計画道路平田阿部山線のほぼ中央部に公園のメインエントランスを設ける
・車両の導入は、メインエントランスの東西に１ヵ所ずつ設ける
・都市計画道路で二分される公園区域を結ぶため、キトラ古墳に近接した部分で、利用者の安全性・快適性を考慮した道路との立体交差の園路を設ける
・壷阪山駅、於美阿志神社、檜前集落、大根田集落、国道１６９号などからのアプローチを考慮して主要動線を設定する。
・周遊歩道からのアプローチを考慮して園路動線を設定する。
・地形の改変を最小限に押さえた動線設定を検討する。
・飛鳥の多様な景観を楽しめる園路構成とする。

２.基本計画案の検討

キトラ古墳周辺地区における計画諸元の算出ならびに各ゾーン別の空間構成・施設計画を検討した上で、基本計画案をとりまとめた。今後、本計画案を基礎としながら、関係諸機関と連携の上、計画を検討する。